

令和3年度 横浜デジタルアーツ専門学校 学校関係者評価委員会報告書
(令和3年4月～令和4年3月)

0. 実施状況

校長指示の下、教務部長が自己評価表を作成し、教職員リーダー6名でそれぞれの項目について点検、評価を行い、取りまとめを行った。評価は、「1（不適切）～4（適切）」の4段階評価とし、併せて、可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

自己評価を実施後、専門分野における業界関係者、卒業生、接続がある学校関係者らから組織される学校関係者評価委員会を開催。自己評価報告に基づき、委員に評価・意見を求めた。指摘された改善点について、あるいはその後の学校運営の進捗により必要となった課題について、改めて教務部で検討を行い、対応を進めている。

1. 開催日時

令和4年8月24日（水）13:00～14:30

2. 学校関係者評価委員

伏見勉氏	校長	神奈川県立神奈川産業高等学校	校長
菊池匡文氏	企業等委員	横須賀商工会議所	専務理事
北川貴和子氏	企業等委員・卒業生	株式会社高陽印刷所	取締役
小峰正仁氏	企業等委員	株式会社メンバーズ	常務執行役員
上坂伸夫氏	企業等委員	株式会社フジパシフィックミュージック	エグゼクティブプロデューサー

3. 出席教職員

三辻 訓	校長		
村田 恒	教務部 部長	高内 一平	教務課 課長補佐
指澤 祐二	教務課 課長	宮下 隆友己	教務課 課長補佐
眞田 宏之	広報学生課 課長	藤原 光洋	教務課 課長補佐
高山 和也	キャリア開発部 課長		



3. 自己評価報告と学校関係者評価・意見、及びその後の対応状況

令和3年4月1日より令和4年3月31日までの学校運営についての自己評価報告、委員の意見、ならびに意見を踏まえた対応は以下のとおり。

(1) 教育理念・目標

<報告>

- ・教育理念・目標は、「高度な技術力の習得・プレゼンテーション能力の育成・豊かな人間性の涵養」。
- ・学生に科目毎のシラバスを作成・配布。非常勤講師との意識統一、教育レベル安定のために、教育課程編成委員会、日々の授業後等において、周知徹底している。
- ・R3年度より3つのポリシーも制定し、入学案内、募集要項に記載している。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

前期後期で年2回、教育課程編成委員会を開催し、委員の意見を集約する。令和3年度は9月22日、3月18日に実施。令和4年度は8月24日、3月中旬に実施予定。具体的な教授方法、進捗状況などを確認する。

(2) 学校運営

<報告>

- ・年度当初に事業計画・予算の策定。定期的な会議等により学校運営の進捗状況、課題等を全教職員が把握。
- ・学生数増に伴う業務増のため、教職員の増員が必要であることが以前から指摘されていたため、令和3年度より2名増員。令和4年度に5名増員と、改善されてきている。

<評価・意見>

- ・特になし

<対応>

- ・今後も適正な人事配置、業務の効率化を図っていく。

(3) 教育活動

3)-1 カリキュラム (教育課程)

<報告>

- ・「職業実践専門課程」として「教育課程編成委員会」を設置。カリキュラム変更は、神奈川県に提出・承認。成績評価・単位認定は、シラバスに記載、学生へ周知。
- ・企業連携講座を積極的に実施。
- ・流行・トピック的な学習も必要と認識、選択授業「短期講座」を設定し、年度途中であっても授業内容を柔軟に追加している。
- ・教員が高校の見学会、学生募集イベント、入学面接試験等に参加・担当することで、課題設定

や学習スピード等をカリキュラムに反映させるようにしている。

<評価・意見>

- ・特になし

<対応>

- ・今後も適正なカリキュラム構築、運営を行っていく。

(3)-2 教員の質確保・研修等

<報告>

- ・教員の質については、学歴や業務経験、人物など総合的な基準を設けた採用。学生アンケート（授業評価）実施、グループ・個人目標設定して改善。
- ・教員の指導力育成のための外部セミナー、研修会等への参加義務付け。オンラインセミナーへの参加件数が増えており、特に専門分野の研修への参加ハードルが下がっており、参加しやすくなった。

<評価・意見>

- ・教員研修は計画的に行っているということだが、これから専門学校教員の最新の技術をおっていきことは非常に大切であると思う。企業と連携して行っていく際にも教員が最新の技術をしっかり把握していないとなかなか難しい。今後も教員の研修は最新の業界動向を追う面で重要である。

<対応>

- ・教員研修については、各分野の教員に最新の技術動向についての研修に参加するよう、オンラインでの研修への参加も積極的に奨励し、計画的に実施する。

(3)-3 インターンシップ・成果発表等

<報告>

- ・各学科で企業実習や企業との連携プロジェクトを積極的に実施、オンラインなども取り入れて継続実施している。
- ・コミュニケーション能力の育成は、グループワークやプロジェクト型学習を取り入れること、また外部講師による特別講座の実施等で向上を図っている。
- ・学生の主体性を育むために、学園祭実行委員会や各種イベントを支援。
- ・教育活動の公開については、前期発表会、後期発表会、YDAAWARDについては、オンラインも交えての実施を行った。

<評価・意見>

- ・貴校はプロジェクト学習、産学連携の活動も活発に行っているが、インターンシップの実施についての評価が3となっているのはどういった理由からか。

<対応>

- ・インターンシップの実施の評価については、本校ではプロジェクト学習や依頼案件としての企業連携は多いものの、就業体験としてのインターンシップは件数が少なく、就業体験は就職意識醸成という観点からも効果的であり、増やしていきたいと考えている。

(4) 教育成果

(4)-1 就職

<報告>

- ・就職指導部職員が、学科担当者、担任と連携して学生の就職指導を行っている。求人票や過去の就職活動のデータベース化などのシステムを構築。
- ・令和3年度卒業生の就職希望者の内定率は87.4%。
- ・引き続き、インターンシップや正規の授業以外に特別授業を実施するなど弾力的、受験企業別の対応を行い、就職実績向上を図る。

<評価・意見>

- ・専門就職率が下がってきているという報告があったが、専門学校として重要なことだとは思いますが、働き方が変わってきている中で、企業に属さず個人として働く、起業するといった動きもあっていいのではないかと。学校としてそういった受け皿を要する余裕はあるのか。
- ・専門就職については、他校学生の例をあげると決まる学生は活動の動きだしが早かった。活動を早期化させる必要があるのではないかと。

<対応>

- ・起業やフリーランスなどの進路を選択するものが出てくる流れは、本校の中でもあり、令和5年度新設の学科ではそういった進路を許容していく方向で検討している。学園全体としても企業支援などの動きは出てきており、今後も前向きに検討したい。
- ・確かに早めに動いている学生の方が内定を勝ち取るのが早い傾向にはある。作品集の完成時期を早めるなど、早期化の方向で検討したい。引き続き専門就職率の向上を目指す。

(4)-2 退学

<報告>

- ・令和3年度の退学率は5.47%。

オンライン授業が増えたことにより、R2年度は退学者減となったが、R3年度はオンライン授業が継続していることも影響して、学生の生活リズムが崩れやすくなったこともあり退学者増となった。

<評価・意見>

- ・退学者増に関して、オンライン授業のメリットもあると思うが、登校させることのメリットもしっかり考え対応したほうが良い。

<対応>

- ・今後は授業成果も精査しながら対面を増やしていく方向で検討する。

(5) 学生支援

<報告>

- ・メンタル面での不調を訴える学生の増加。本校ではカウンセラー1名を採用、オンラインやメール等での対応も行っている。ほかにも、犯罪・薬物・消費トラブルなどの指導、震災・災害発生時の対応などの指導。

- ・経済的事情により就学継続できない学生増は、奨学金利用のサポートの強化、独自の学費分割納入制度の導入・紹介もあり、改善している。
- ・保護者への情報提供については、年間スケジュールに従い、成績、出欠状況を送付。
- ・学生が主体的に取り組む学外での創作・演奏活動（作品販売、コンサート等）について、出展費用など支援している。が令和3年度はイベント等がほとんど開催されず実績はなかった。

<評価・意見>

（特になし）

<対応>

- ・カウンセリングを受けている件数も、R4年度も増えており、R4年度後期からは週1から週2へ増やして対応の予定。

（6）教育環境

<報告>

- ・入学者全員に貸与するノート PC（作品制作ソフト）と併せて、教育設備・環境の整備に力を入れている。
- ・令和3年度は、2号館8階の教室整備を行った。

<評価・意見>

（特になし）

<対応>

令和4年度は、2号館6階教室の什器の交換を予定。

（7）学生募集

<報告>

- ・年度当初に募集計画（募集人数、予算、広報媒体、イベント等）を定め、募集活動を行っている。令和4年度入学者は学科毎では増減あるが、全体では目標数を上回った。
- ・学生募集においても、オンライン説明会や、各分野のオンラインオープンキャンパスを行うなど、オンライン環境での募集活動も展開した。
- ・学校見学や説明会、体験入学等、入学を検討するイベントを数多く実施。入学後のミスマッチ（勘違い・思い込みによる入学）防止に努めている。

<評価・意見>

（特になし）

<対応>

引き続き、オープンキャンパスメニューとして、体験入学、作品見学&学校説明会、進学資金説明会、特別講座のほか、分野別の説明会を実施予定。

（8）社会貢献

<報告>

- ・神奈川県専修学校各種学校協会が主催する小中高校生向けにキャリア教育プログラムに参画。

主に夏休みを利用した講座で、毎回、多くの小中高校生が参加している。

- ・地域の様々な活動が推進されるなか、本校の体育館などの設備開放が求められてきており、学校休業日に施設の貸し出しを行っている。
- ・未来のクリエイターである中高生を対象にイラストコンテストを主催している。なかには授業や部活動として取り組む高校もあり、評価されている。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

- ・令和4年度も引き続き、イラストコンテストを開催する予定。

(9) 財務

<報告>

- ・入学者の確保に努め、入学者変動を抑えながら、収益事業を展開することで財政基盤の安定を図っている。
- ・人件費、広報費は、学園ガイドラインに従い、予算・収支計画を立案の上、執行しており、監査は、監査人により実施しており、体制が確立されている。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

引き続き、学校経営の安定化に努める。

(10) 法令等の遵守

<報告>

- ・設置や運営に関わる法令は遵守しており、毎年5月には県の現況調査を受けている。
- ・「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、自己評価、学校関係者評価の体制を整備し、実施、およびその結果について、ホームページにて公開している。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

引き続き、法令遵守していく。

以上